

## 所得格差の拡大は不健康をもたらす 地域内の所得格差は、地域住民間の相互信頼感を低下させ 不健康をもたらす可能性

2009年10月19日の日本福祉大学健康社会研究センター開設記念フォーラムにて、以下の内容のポスターの発表を行います。

### 【背景】

多くの人が所得格差の拡大を感じている中で、所得格差がどのような影響を及ぼすのかは重要な論点である。さまざまな影響の中で、所得格差が不健康をもたらすという相対所得仮説というものへの検証が欧米を中心に進められてきており、本研究でも同様の検証を行ない、それを支持する結果が得られた。

また、所得格差が不健康をもたらすメカニズムを仲介するもののひとつに、社会や組織の人々の間の信頼感、規範、ネットワーク等を表すソーシャルキャピタルの減衰が提唱されており注目を浴びている。本研究でもその検証を行ったところそれを支持する結果が示された。

### 【分析内容とその結果】

知多半島の昭和の大合併前の市町村（合計25地区）の単位において、所得格差の大きさの指標であるジニ係数（高齢者間）が高い地区において、ソーシャルキャピタルの指標である他者への信頼感の質問に肯定的な回答をする人の割合が低いことを示す相関が得られた（下図）。

また、AGESの要介護状態にない高齢者15,225人のデータを用いて、個人の所得水準等の関連要因の影響を除く統計モデルにより厳密な分析をしたところ、以下の関連が示された。

- ① ジニ係数が高い地区で主観的健康感が良いと回答する確率が低い
- ② ジニ係数が高い地区では、他者への信頼感について肯定的に回答する確率が低い
- ③ 他者への信頼感が低い地区では、主観的健康感が良いと回答する確率が低い。

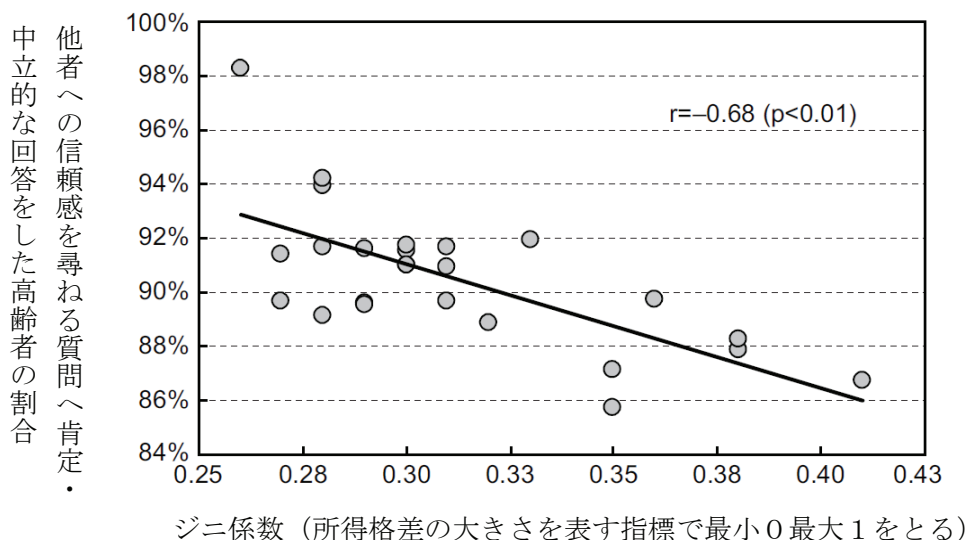


図 地区ごとの所得格差と他者への信頼の関係

書誌情報：Yukinobu Ichida, Katsunori Kondo, Hiroshi Hirai, Tomoya Hanibuchi, Goshu Yoshikawa, Chiyo Murata : Social capital, income inequality and self-rated health in Chita peninsula, Japan: a multilevel analysis of older people in 25 communities. Social Science & Medicine 69(4) : 489-499, 2009.

<本件に関するお問い合わせ>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 研究員 市田行信(いちだゆきのぶ)

TEL : 03-6711-1243 E-mail : y.ichida@murc.jp